３．授業実践報告
（1）小学部　国語・算数

案内役：フクロウさん

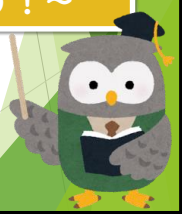
令和4年度
～授業づくり研修～

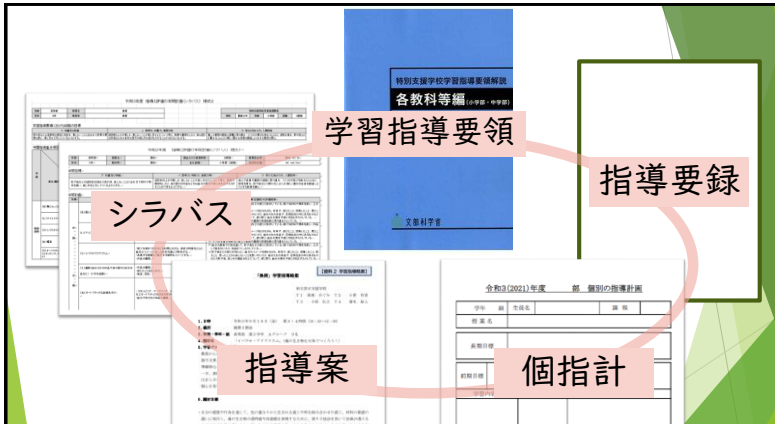
小学部2･3年生
国語･算数
（授業名：ことばかず）

単元：『ちがいかんじよう』
題材：「おおきい　ちいさい」

今年度の研修テーマは…

つながりが見える！わかる！
～シラバス作成から評価まで！
教科の視点で子どもたちの成長を捉えよう！～





各教科・各段階の育成すべき資質・能力を柱に

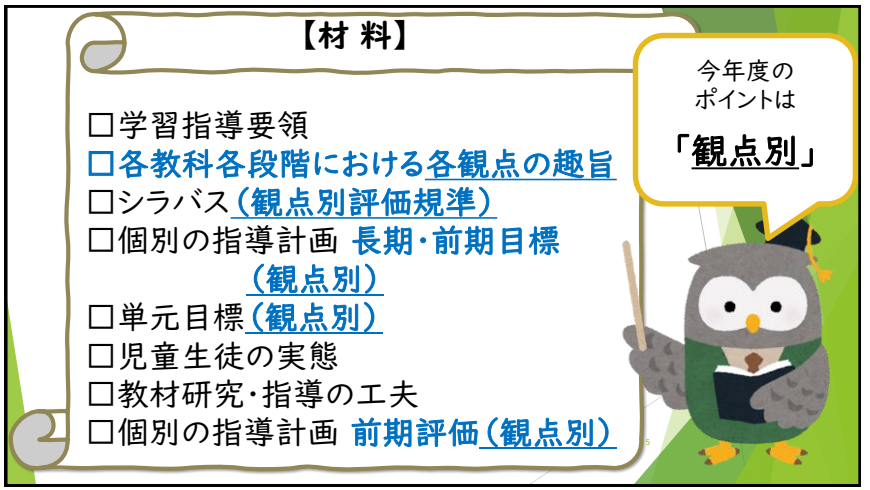
【材 料】

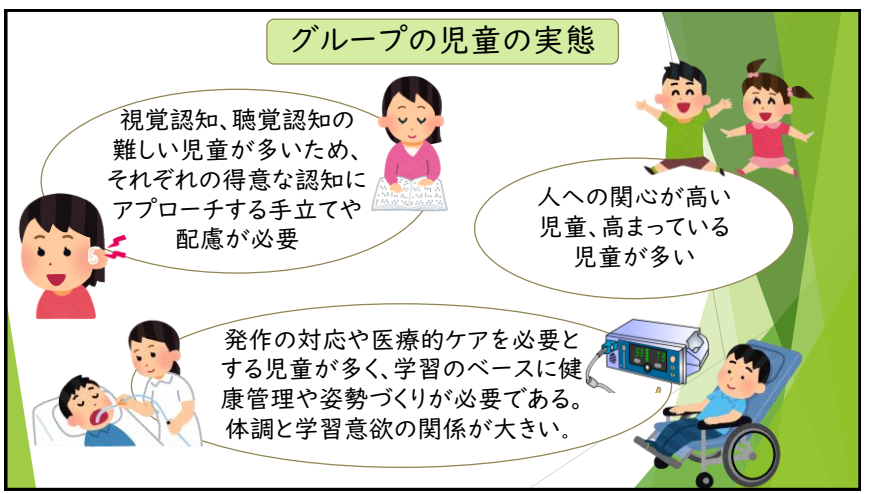
- □学習指導要領
- □各教科各段階における各観点の趣旨
- □シラバス（観点別評価規準）
- □個別の指導計画 長期･前期目標（観点別）
- □単元目標（観点別）
- □児童生徒の実態
- □教材研究･指導の工夫
- □個別の指導計画 前期評価（観点別）

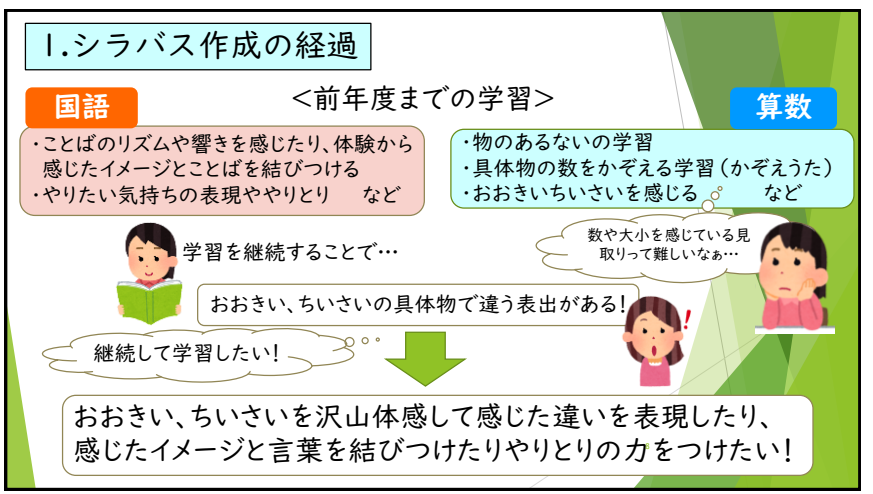
これらを
組み合わせて
実践を行いました！

３．授業実践報告

（1）小学部　国語・算数







3．授業実践報告

（1）小学部　国語・算数

2.題材の決定

国語

「おおきい」「ちいさい」の言葉と経験やイメージを結び付けたり、やりとりの力をつけたい

算数

「おおきい」と「ちいさい」を感じる経験を積んで、感じたことを表現して欲しい

色々な「おおきい」と「ちいさい」の経験と幅を広げる！

題材：「おおきい　ちいさい」

「おおきい」と「ちいさい」の2つの言葉の繰り返しと、抽象画で展開される絵本

令和4年度　指導と評価の年間計画（シラバス）　様式1

学部	小学部	授業名	ことば・かず	週当たりの授業時数	3	授業担当者	
学年	2・3年ぶどうグループ	教科等	国語・算数	主な授業	小学部1段階	採択教科書	国語「ぞうくんのさんぽ」 算数「コロちゃんはどこ？」

年間目標（国語）

ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等	ウ　学びに向かう力、人間性等
身近な人の話しかけに慣れたり、言葉の持つ音やリズムに触れたりすることで、言葉が事物の内容を表していることを感じる。	自分の思いや要求を表すために必要な言葉を思い浮かべたり、言葉による関係に意識を向けたりする。	言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、自分なりの方法で思いを伝えたりしようとする態度を養う。

年間目標（算数）

	ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等	ウ　学びに向かう力、人間性等
数量の基礎	具体物に気付き、手や指で追したりつかもうとしたり目で追ったりする。	身の回りのものを関連づけることに注意を向ける。	数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。
数と計算	ものの有無に気付き、数に関心を持って関わる。	ものの有無や数的要素に注目する。	数量に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。
図形	具体物に気付き、手や指で追したりつかもうとしたり目で追ったりする。	身の回りのものの形に注目する。	図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。
測定	体験的な活動や大きな違いのあるものを通して、大小や長短、多少の違いに気付く。	体験的な活動や大きな違いのあるものを通して、大小や長短、多少等で区別することに関心を持つ。	数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。

年間計画

学期	単元(題材)	主な学習活動	単元(題材)の評価規準
前期	(あ)絵本を楽しもう 「ぞうくんのさんぽ」「おおきなかぶ」	・パネルシアターなどに注目し、お話を見聞きする。 ・言葉のリズムややりとりの楽しさを感じる。 ・大きさを表す言葉を知ったり、大きさの違いを感じたりする。	ア：言葉のリズムに触れ、絵本に興味を持って見聞きする。（国語） イ：教師と一緒に絵本を見て、登場する物に注目したり触れようとしたりしている。（国語） ウ：絵本に親しみ、自ら触れようとしたり声を出したりして、期待感を表現している。（国語） ア：具体物に注目し、手や指を動かして触れようとしたり、目で追ったりしている。（算数） イ：具体物に触れて感じたことを、表情や視線、体の動きで表現している。（算数） ウ：具体物に自ら触れようとしたり、感情を表現しようとしたりして関わろうとしている。（算数）
	(い)ちがいを感じよう 「おおきい　ちいさい」	・TV絵本に注目し、お話を見聞きする。 ・絵本の体験活動をする。 ・体験を通してお話への期待感を持つことができる。（国語） ・感じた気持ちを自分なりの方法で表現する。 ・授業を振り返る。	ア：言葉のリズムや抑揚を感じ、絵本に興味を持って見聞きする。（国語） イ：言葉のやり取りを楽しみ、やりとりに応じて表現したり、選択したりすることができる。（国語） ウ：体験活動を通して、好きな場面やお話への期待感を持つことができる。（国語） ア：体験活動を通して、おおきさの違いを感じることができる。（算数） イ：体験活動を通して、感じた大きさの違いを表現することができる。（算数） ウ：体験的な活動への期待感を声や表情で表現しようとしている。（算数）

こちらが対象グループの授業シラバス（様式Ⅰ）です。

【資料Ⅰ】シラバス様式Ⅰ

年間計画

学期	単元(題材)	主な学習活動	単元(題材)の評価規準
前期	(あ)絵本を楽しもう 「ぞうくんのさんぽ」「おおきなかぶ」	・パネルシアターなどに注目し、お話を見聞きする。 ・言葉のリズムややりとりの楽しさを感じる。 ・大きさを表す言葉を知ったり、大きさの違いを感じたりする。	ア：言葉のリズムに触れ、絵本に興味を持って見聞きする。（国語） イ：教師と一緒に絵本を見て、登場する物に注目したり触れようとしたりしている。（国語） ウ：絵本に親しみ、自ら触れようとしたり声を出したりして、期待感を表現している。（国語） ア：具体物に注目し、手や指を動かして触れようとしたり、目で追ったりしている。（算数） イ：具体物に触れて感じたことを、表情や視線、体の動きで表現している。（算数） ウ：具体物に自ら触れようとしたり、感情を表現しようとしたりして関わろうとしている。（算数）
	(い)ちがいを感じよう 「おおきい　ちいさい」	・TV絵本に注目し、お話を見聞きする。 ・絵本の体験活動をする。 ・体験を通してお話への期待感を持つことができる。（国語） ・感じた気持ちを自分なりの方法で表現する。 ・授業を振り返る。	ア：言葉のリズムや抑揚を感じ、絵本に興味を持って見聞きする。（国語） イ：言葉のやり取りを楽しみ、やりとりに応じて表現したり、選択したりすることができる。（国語） ウ：体験活動を通して、好きな場面やお話への期待感を持つことができる。（国語） ア：体験活動を通して、おおきさの違いを感じることができる。（算数） イ：体験活動を通して、感じた大きさの違いを表現することができる。（算数） ウ：体験的な活動への期待感を声や表情で表現しようとしている。（算数）

今回、実践していただいたのはー…

単元　（い）ちがいを感じよう

題材　『おおきい　ちいさい』　です。

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）
第4章　第2 国語科　イ内容より

〔知識及び技能〕

●言葉の特徴や使い方に関する事項

ア　言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ)言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。

〔思考力、判断力、表現力等〕

A　聞くこと・話すこと

ウ　伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。

３．授業実践報告
（1）小学部　国語・算数

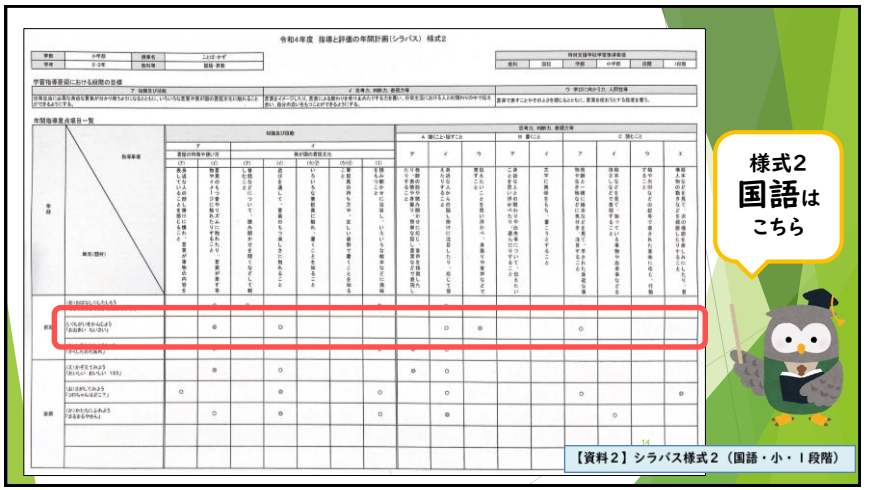
特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）
第4章　第3 算数科　イ内容より

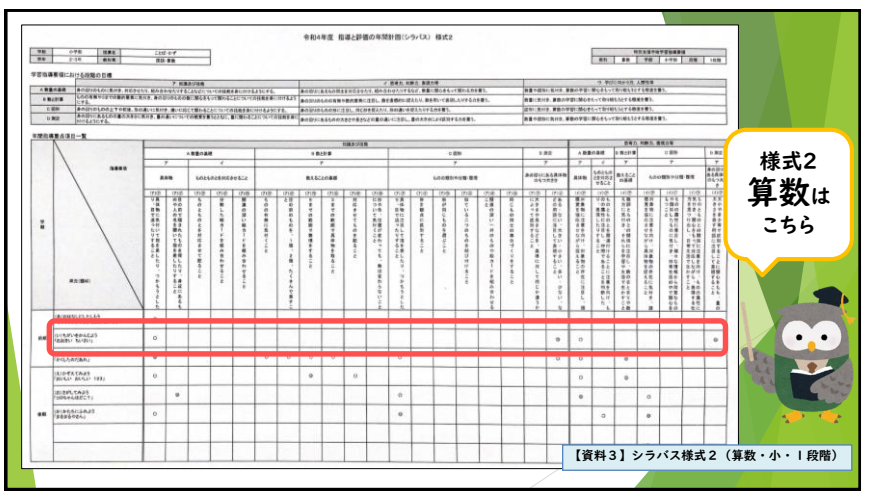
領域：D測定

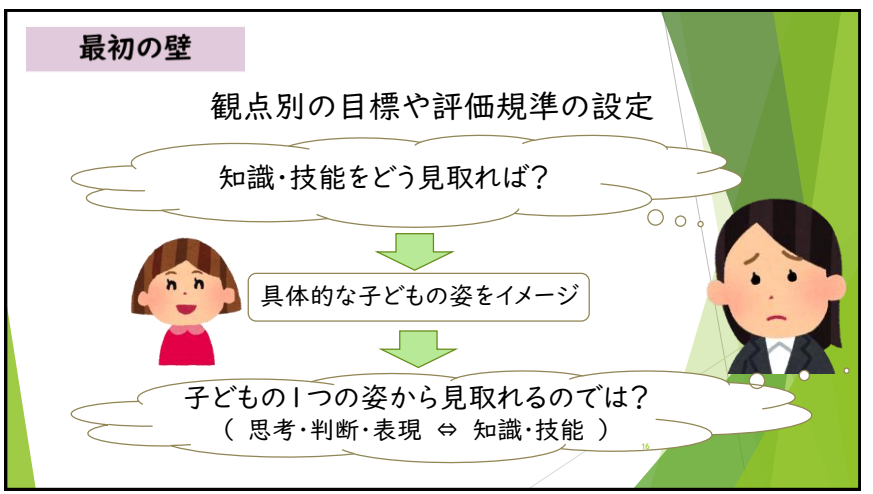
ア　身の回りにある具体物のもつ大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

〔知識及び技能〕
(ア)㋑ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現すること。

〔思考力、判断力、表現力等〕
(イ)㋐大小や多少等で区別することに関心をもち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。







３．授業実践報告

（1）小学部　国語・算数

最初の壁

観点⇒子どもを見る視点

（観点ごとに、~~3つの異なる目標をたてて~~評価する）

知識・技能

おおきさのちがいを感じている

学びに向かう力

積極的に活動している

思考・判断・表現

感じたおおきさのちがいによって表情や身体の動きが変わる

個別の指導計画

授業名	国語・算数（ことばかず）	
長期目標	・好きな場面や好きな登場人物など自分なりの方法で教師に明確に伝えることができる。 ・教師の声に注意を向け、声に対して反応することができる。 ・体験を通して感じた気持ちを自分なりの方法で伝えることができる。	
前期目標	①言葉のリズムや抑揚を感じ、好きな場面を表情や身体の動きで表現することができる。 ②体験活動を通して、大きさの違いを感じ、感じたことを表情や身体の動きで表現することができる。	
学習内容	支援方法・配慮	具体的な手立てと評価
・絵本を楽しもう 「ぞうくんのさんぽ」 「おおきなかぶ」 ・ちがいを感じよう 「おおきい　ちいさい」 ・かぞえてみよう 「かくしたのだあれ」 「おいしいおいしい123」	①リズムや抑揚の違いや変化がわかりやすいように教材を工夫する。 ②気持ちの表出があった時に言葉にして表現し、表現できたことを認める。	

シラバスとリンクした！

昨年度の授業づくり研修を受けた先生によって各教科・段階で観点別の趣旨ふまえたシラバス作成がなされているからだ！

国語

知識技能	体験活動や絵本の読み聞かせから、「おおきい」「ちいさい」の言葉が表す事象やイメージに触れる
思考判断表現	体験活動ややり取り遊びを通して、感じたことや伝えたいことを身体の動きや表情、視線で表現したり応えたりしようとする
学びに向かう力人間性	読み聞かせに親しんだり、やり取りを楽しんで意欲的に伝えたり応えたりしようとする

今回は教科毎に設定した方が、各教科の視点の抜け落ちがなく、設定しやすいなぁ…

算数

知識技能	読み聞かせや体験活動から「おおきい」と「ちいさい」の違いに気づく
思考判断表現	体験活動を通して感じた「おおきい」や「ちいさい」を身体の動きや表情、視線や声で表現する
学びに向かう力、人間性	大きさの違いに関心を持ち、体験活動に意欲的に取り組もうとする

単元の評価規準

A　知識・技能	B　思考・判断・表現	C　主体的に学習に取り組む態度
①（国）読み聞かせや体験活動の中で、言葉の響きや抑揚、リズムの違いから「おおきい」と「ちいさい」を感じている。 ②（算）読み聞かせや体験活動から、「おおきい」と「ちいさい」の違いを感じている。	①（国）自分が感じた「おおきい」「ちいさい」を伝えたり、やり取り遊びで、友だちに「おいで」を伝えたり、応じたりしようとしている。 ②（算）体験活動で、具体物の大きさに応じて表情や声身体の動きを変えて表現しようとしている。	①（国）言葉の響きやの楽しさを感じ、おはなしに注目したり、具体物に触れようとしたりしている。 ②（国）体験活動ややり取り遊びで、意欲的に伝えたり応えたりしようしている。 ③（算）大きさに注目しながら体験活動に意欲的に取り組もうとしている。

３．授業実践報告

（1）小学部　国語・算数

単元計画

【資料４】学習指導案

次	時	場面	具体物	学習活動	評価規準
1	1～3			①弾ませる･転がす ②手や膝に乗せる ③大小のボールを持つ･持ち上げる	行動観察 AB① AB②
2	4～11			①手や膝に乗せる ②落とす ③引き上げてから落とす	行動観察 AB① AB② C① C③
3	12～22			①車に乗る（入る） ②中で動いたり､「おーい」の呼びかけて声の響きの違いを感じる ③友達と「おいで」のやり取りをする ④車に乗って走る	行動観察 AB① AB② C① C②

対象児童：A児の実態

- 聴覚認知が困難
- 興味のあるものはよく見る
- 人が好きで絵本や教材よりも人に注意が向きやすい
- 触覚刺激には敏感で､はじめは手を引くことが多い
  ⇒慣れると触れようとする
- 活動の見通しが持てると自分から期待感を表す
- 期待反応や応答性のある行動が課題

【関連する自立活動の内容】
区分：コミュニケーション
コミュニケーションの基礎的能力に関すること

チェックリストより
後述の支援や手立ての参考､根拠に！

「おおきい」「ちいさい」

児童A

知識技能	ことばのイメージに触れる【国】	おおきさの違いを感じる【算】
思考判断表現	感じたことを伝える（体の動き）【国】 やりとりで伝えたり応えたりする（声､表情）	体験から感じた「おおきい」「ちいさい」の違いを表現する（体の動き）【算】
学びに向かう力人間性	読み聞かせに親しむ 意欲的に伝える（声､表情）【国】	大きさの違いに関心を持つ【算】 意欲的取り組む（声､表情､動き）

読み聞かせ

タブレット絵本
サイン､動き
アップルTV
提示位置
アニメーション
教員の位置
環境の設定
座席の位置

体験活動

環境の設定
教員の位置
具体物の大きさ
表出⇒言葉にして伝える

対象児童：B児の実態

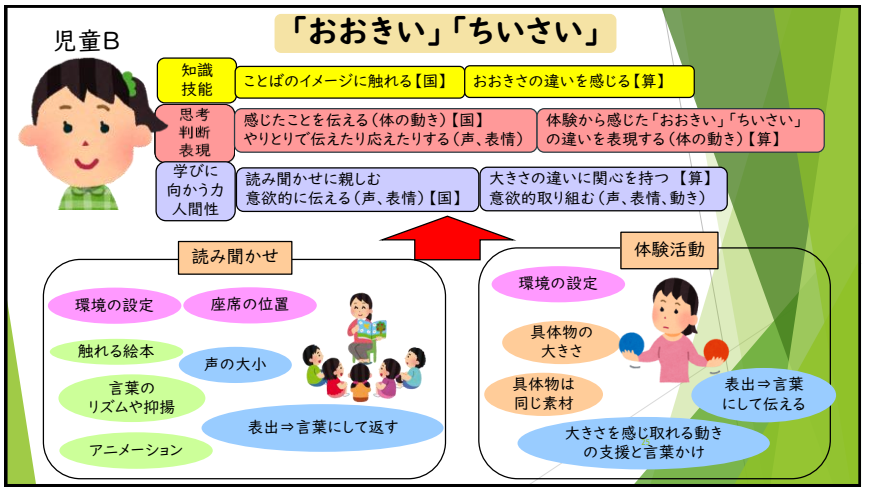
- 視覚認知が困難
- 聴覚認知（聴覚認知は補聴器使用）､触覚認知が得意
  絵本の読み聞かせが好きで、 好きなフレーズで笑ったり身体を動かして楽しむ
- 体調と学習への意欲との関係が大きい
- 他者意図への気づきや単純な因果関係の理解が課題

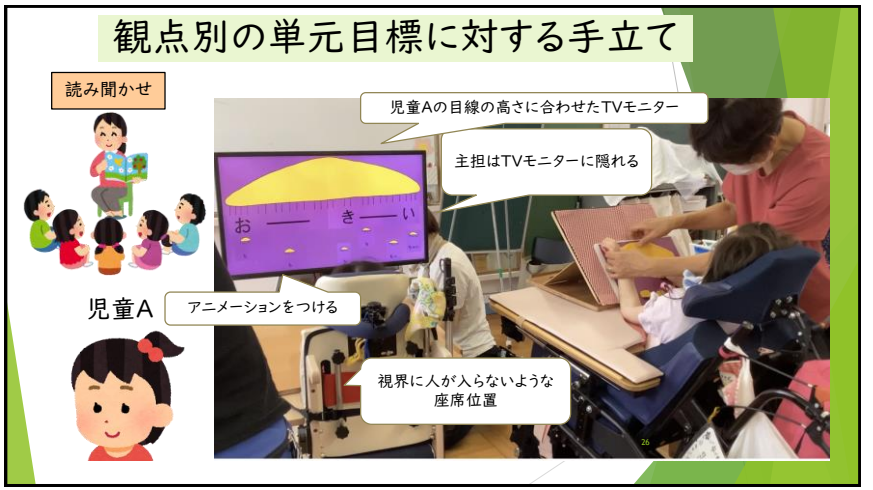
【関連する自立活動の内容】
区分：コミュニケーション
コミュニケーションの基礎的能力に関すること

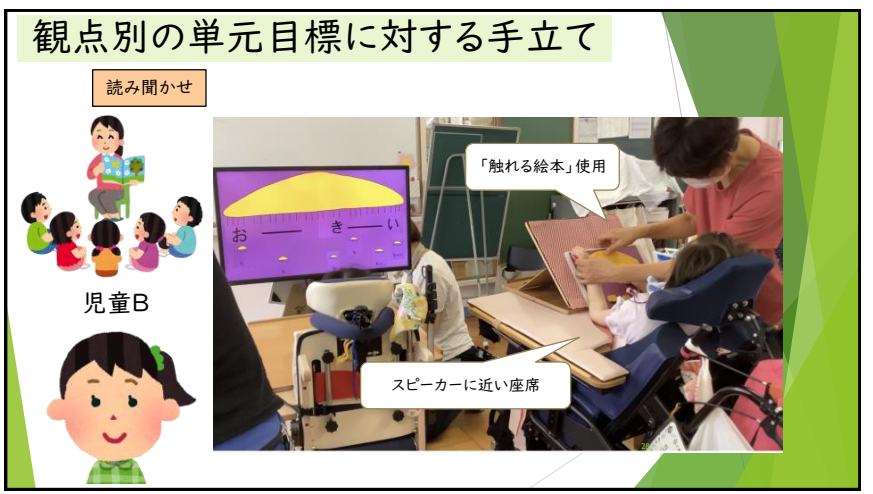
チェックリストより
後述の支援や手立ての参考､根拠に！

３．授業実践報告

（1）小学部　国語・算数







3．授業実践報告

（1）小学部　国語・算数

観点別の単元目標に対する手立て

体験活動

おおきい
両手で抱えきれない
（持てない）

ちいさい
両手で抱えることができる
（持てる）

極端に大きさを変え、
体感しやすいように

観点別の単元目標に対する手立て

読み聞かせ

・絵本をタブレット教材にする

・ページ毎に読み手を変えて、抽象画からイメージした「おおきい」と「ちいさい」を表現して読んだものを録音して使用する

・アニメーションをつけて、注目を促したり、リズムやイメージを感じたりできるようにする

・ZOOM画面共有する⇒教員１名で操作できる

観点別の単元目標に対する手立て

読み聞かせ

・触れる絵本の児童と見る・聞く児童の実態とペースを考慮し、「おおきい」「ちいさい」を2回ずつ繰り返す

・視覚認知の難しい児童には、絵本を立体化した「触れる絵本」を作成して使用する

・子どもの認知特性や課題に合わせて、タブレット・TVモニター、触れる絵本を使用し、提示位置や提示方法を検討する

・課題や特性に合わせた座席配置の検討

観点別の単元目標に対する手立て

体験活動

・読み聞かせや言葉かけの「おおきい」「ちいさい」も声量の大小や身振りで大小の違いを表現する

・場面毎に大きさと関連する言葉を統一

場面	おおきい	ちいさい
１次（１場面）	ごろんごろん	ころころ
２次（３場面）	どっしり、ずっしり	ちょこん、ひょい
３次（８場面）	走行音「ぶるるーん」	走行音「ぶーん」

３．授業実践報告

（1）小学部　国語・算数

観点別の単元目標に対する手立て

体験活動

・重さ、広さなども大きさのひとつの要素として捉え言葉かけは「おおきい」「ちいさい」とする

・子どもの表出を待ち、表出があった時に言葉にして返したり伝えたりすることで、伝わった喜びや楽しさを感じられるようにした

・「おおきい」＝両手で抱えることができない、「ちいさい」＝両手に収まり、持ち上げられるおおきさにすることで違いを明確にした

実践した授業での対象児童の姿

知識・技能

おおきい：両手で抱えるような動き
ちいさい：自分から手を伸ばして握り持ち上げる
具体物の大きさに両手の幅を変える

具体物から大きさの違いを感じている
自分の知っている大きいがある！

児童A

「おおきい」ボールの時に、前題材で学習した大きいを表す身振りが出た

TVモニターに注目して抽象画を追視する

車の体験では、声と笑顔で「やりたい！」を伝える

学びに向かう力

読み聞かせに注目できるようになった！
やりたい活動で声をだす
やりとりに声を出してこたえる

思考・判断・表現

感じたおおきさの違いによって持ち方が変わる！
声や表情で気持ちを伝える

実践した授業での対象児童の姿

知識・技能

おおきい：手足の動きが止まり首を振る
ちいさい：持ち上げてみたり、手の甲に乗せて、足を動かす

読み聞かせや体験活動の具体物から大きさの違いを体感している！

児童B

触れる絵本の「ちいさい」のいくつかを掴もうとする

車の場面の体験活動で、問いかけに手を上げたり笑ったりする

学びに向かう力

・読み聞かせで触れる絵本の好きな場面で手を積極的に動かす
・好きな場面

思考・判断・表現

感じたおおきさの違いによって体の動きが変わった
やりとりに応えることができた

まとめ

（1）個別の指導計画、シラバス、授業、指導要録のつながり

（2）教科の学習の考え方（指導主事からの学び）

（3）アフタートーク

３．授業実践報告

（1）小学部　国語・算数

（1）個別の指導計画、シラバス、授業、指導要録のつながり

担当した別の教科はシラバスと個別の指導計画がうまくリンクしていない！

シラバスが段階にそぐわなかったり、評価規準が観点の趣旨からずれてる！

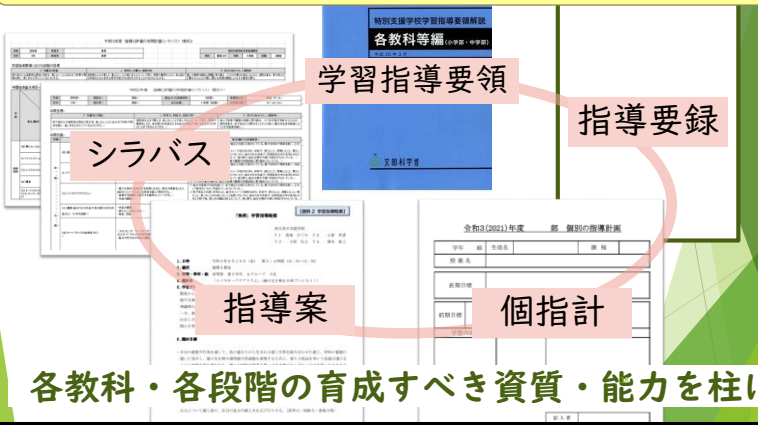
・個別の指導計画が個人の実態によった結果、 教科の視点が抜け落ちていたり、1段階の目標にそぐわない！
・重点課題と個別の指導計画がリンクしていない

°○○

再考しなければ…

37

（1）個別の指導計画、シラバス、授業、指導要録のつながり



各教科・各段階の育成すべき資質・能力を柱に

（1）個別の指導計画、シラバス、授業、指導要録のつながり

学習指導要領

シラバス

＜前期＞

単元Aの評価規準

単元Bの評価規準

単元Cの評価規準

・・・・・・

・個別の教育支援計画
・これまでの学習
・重点課題　など

個別の指導計画

・手立て
・支援
・配慮

39

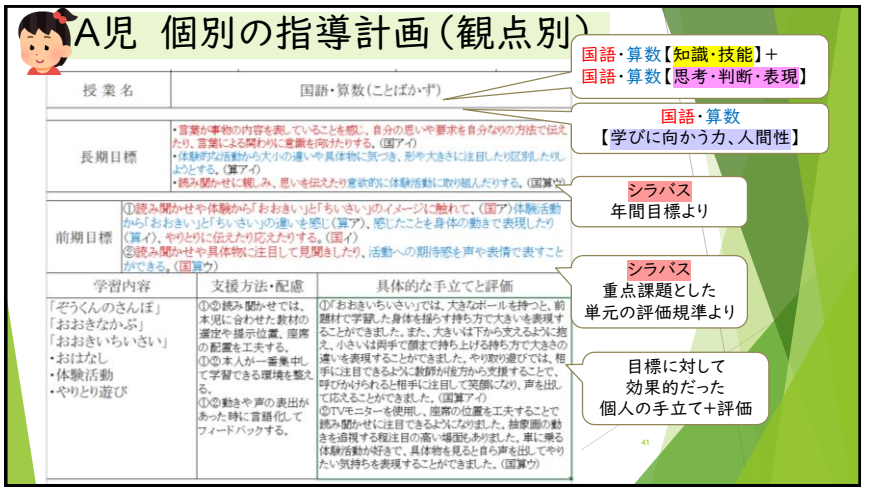
学習状況の評価を
観点別にしていくにあたって
全校研究で紹介されていた
☜「コレ」も参考にできますね！

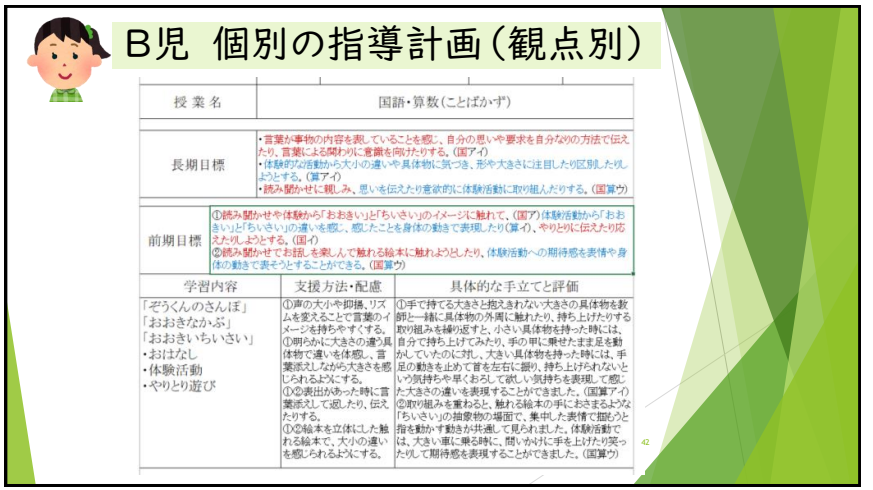
この資料には、
各教科の各段階ごとの
観点の趣旨と
評価規準の設定の仕方
について示されています。

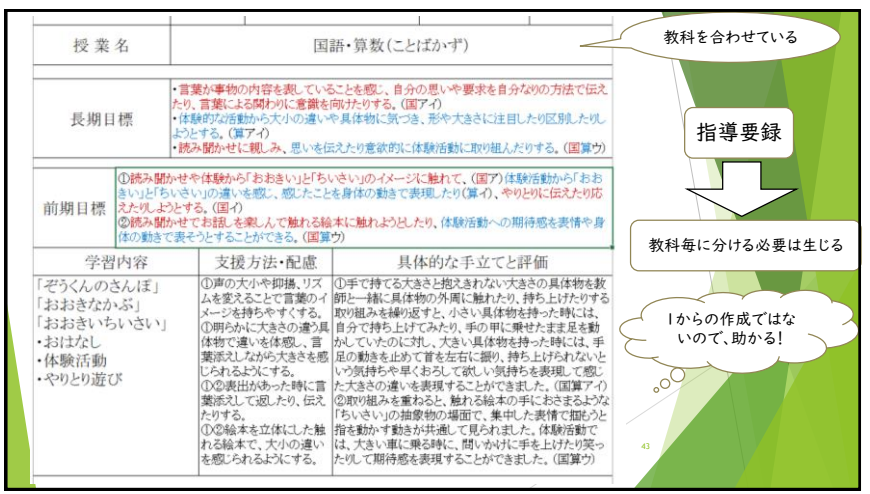
40

３．授業実践報告

（1）小学部　国語・算数







３．授業実践報告

（1）小学部　国語・算数

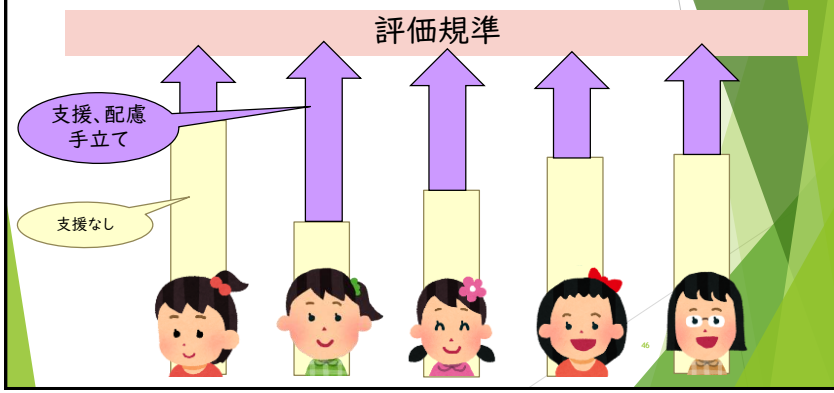
（2）教科の学習の考え方（指導主事からの学び）

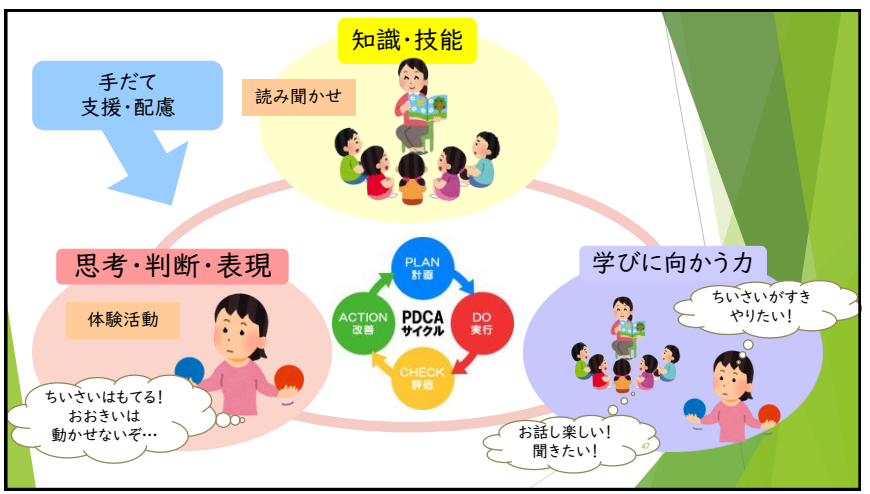
概念を養うために「大きい」「小さい」を体験的に感じる経験を増やし（算）、その経験と言葉を結びつけたり、表現したりする（国）

⇒この経験やイメージの幅を広げたり、積み重ねていくことが授業で取り組むべきこと

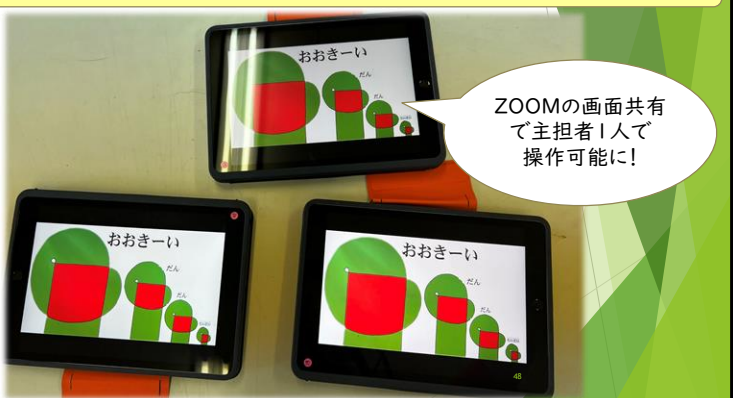
<学習指導要領>
D：測定
ア　身の回りにあるものの量の大きさに気付き、量の違いについての感覚を養うとともに、量に関わることについての技能を身に付けるようにする。
１段階の「測定」では、量の大きさについての基礎的な概念を養い、大きい・小さい、多い・少ないなどの違いに体験的に気付くことができるよう、量の大きさを区別することについて指導する。
・１段階、2段階における量：大きさや長さ⇒視覚等の感覚による判断
・量に対する理解が数量概念の始まりとなり、量を区別する経験を豊かに持つことによって、2段階の目標である二つの大きさを比べることへと発展していく

（2）教科の学習の考え方（指導主事からの学び）





（3）アフタートーク①　～教材提示方法の工夫編～



３．授業実践報告
（1）小学部　国語・算数

【資料１】シラバス様式１

令和4年度　指導と評価の年間計画（シラバス）　様式1

学部	小学部	授業名	ことば・かず	週当たりの授業時数	3	授業担当者	
学年	2・3年	教科等	国語・算数	主な段階	小学部1段階	採択教科書	

年間目標（国語）

ア　知識及び技能	イ　思考力，判断力，表現力等	ウ　学びに向かう力，人間性等
身近な人の話しかけに慣れたり、言葉の持つ音やリズムに触れたりすることで、言葉が事物の内容を表していることを感じる。	自分の思いや要求を表すために必要な言葉を思い浮かべたり、言葉による関りに意識を向けたりする。	言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、自分なりの方法で思いを伝えたりしようとする態度を養う。

年間目標（算数）

	ア　知識及び技能	イ　思考力，判断力，表現力等	ウ　学びに向かう力，人間性等
数量の基礎	具体物に気付き、手や指で差したりつかもうとしたり目で追ったりする。	身の回りのものを関連づけることに注意を向ける。	数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。
数と計算	ものの有無に気付き、数に関心を持って関わる。	ものの有無や数的要素に注目する。	数量に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。
図形	具体物に気付き、手や指で差したりつかもうとしたり目で追ったりする。	身の回りのものの形に注目する。	図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。
測定	体験的な活動や大きな違いのあるものを通して、大小や長短、多少の違いに気付く。	体験的な活動や大きな違いのあるものを通して、大小や長短、多少等で区別することに関心を持つ。	数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。

年間計画

学期	単元(題材)	主な学習活動	単元(題材)の評価規準
前期	(あ)絵本を楽しもう 「ぞうくんのさんぽ」「おおきなかぶ」	・パネルシアターなどに注目し、お話を見聞きする。 ・言葉のリズムややりとりの楽しさを感じる。 ・大きさを表す言葉を知ったり、大きさの違いを感じたりする。	ア：言葉のリズムに触れ、絵本に興味を持って見聞きする。（国語） イ：教師と一緒に絵本を見て、登場する物に注目したり触れようとしたりしている。（国語） ウ：絵本に親しみ、自ら触れようとしたり声を出したりして、期待感を表現している。（国語） ア：具体物に注目し、手や指を動かして触れようとしたり、目で追ったりしている。（算数） イ：具体物に触れて感じたことを、表情や視線、体の動きで表現している。（算数） ウ：具体物に自ら触れようとしたり、感情を表現しようとしたりして関わろうとしている。（算数）
	(い)ちがいを感じよう 「おおきい　ちいさい」	・TV 絵本に注目し、お話を見聞きする。 ・絵本の体験活動をする。 ・体験を通しておおきさの違いを感じる。 ・感じた気持ちを自分なりの方法で表現する。 ・授業を振り返る。	ア：言葉のリズムや抑揚を感じ、絵本に興味を持って見聞きする。（国語） イ：言葉のやり取りを楽しみ、やりとりに応じて表現したり、選択したりすることができる。（国語） ウ：体験活動を通して、好きな場面やお話への期待感を持つことができる。（国語） ア：体験活動を通して、おおきさの違いを感じることができる。（算数） イ：体験活動を通して、感じた大きさの違いを表現することができる。（算数） ウ：体験的な活動への期待感を声や表情で表現しようとしている。（算数）

	（う）かぞえてみよう1～5 「かくしたのだあれ」	・絵本に描かれてある絵を触りながら1～5の数唱をする。 ・5個の具体物を一つずつ枠に入れながら増えていくのを確かめる。 ・5個の具体物を一つずつ枠から取り出しながら減っていくのを確かめる。	ア：絵や具体物に気づいて指を差したり、つかもうとしたりする。（算数） イ：体験的な活動でものの有無や数的要素に気づいたことを表現する。（算数） ウ：絵や具体物に自ら触れようとしたり、関心をもって取り組もうとしたりしている。（算数）
後期	（え）かぞえてみよう 「おいしい　おいしい　123」	・絵本や具体物に触れながら数唱する。 ・絵本に登場する食べ物に関するオノマトペから食べ物のイメージを膨らませたり、言葉のもつリズムや音の面白さを感じたりする。 ・言葉や物によるやり取りの楽しさやよさを感じる。	ア：言葉の音やリズムに触れたり、食べ物のイメージに触れたりしている。（国語） イ：教師の読み聞かせに応じて、表情や身振りで表現しようとしている。（国語） ウ：絵本に親しみ、期待感を持ってお話を見聞きしている。（国語） ア：絵や具体物に気付き、掴もうとしたり、触れたりしながら5までの数を感じている。（算数） イ：数学的活動から数詞と具体物の関係を感じ、数のまとまりや数え方に気付いている。（算数） ウ：数えることの楽しさを感じ、数量に関心を持って学習に取り組んでいる。（算数）
	（お）さがしてみよう 「コロちゃんはどこ？」	・お話を見聞きする。 ・言葉によるやり取りの楽しさを感じる。 ・隠れたり、隠れているものを探したりする体験活動をする。	ア：かくれんぼ遊びを通して、言葉の持つ楽しさに触れている。（国語） イ：絵本を見て次の場面や展開、仕掛けを楽しみにしている。（国語） ウ：言葉によるやり取りの良さを感じ、自分なりに表現しながら遊びに取り組もうとしている。（国語） ア：目の前で隠されたものを探そうとしている。（算数） イ：体験活動の中で隠されたものに注意を向け、隠れているものに注目している。（算数） ウ：隠れたものの有無に関心を持って学習に取り組んでいる。（算数）
	（か）かたちにふれよう 「まるまるやさん」	・まる、さんかく、しかくの形に触れる。 ・お店屋さんごっこをする。 ・言葉や物を通じてやりとりする。	ア：ごっこ遊びを通して、言葉の持つ楽しさに触れようとしている。（国語） イ：教師や友だちからの話しかけに注目したり、応じて答えようとしたりしている。（国語） ウ：言葉によるやり取りのよさを感じ、意欲的にごっこ遊びに取り組んでいる。（国語） ア：形に注目して掴もうとしたり、目で追ったりしている。（算数） イ：具体物に注意を向け、見たり触れたりしながら形を捉えようとしている。（算数） ウ：さまざまな形に気づき、関心を持ってごっこ遊びに取り組んでいる。（算数）

【資料２】シラバス様式２（国語・小・Ⅰ段階）

令和4年度　指導と評価の年間計画（シラバス）　様式2

学部	小学部	授業名	ことば・かず
学年	2・3年	教科等	国語・算数

特別支援学校学習指導要領					
教科	国語	学部	小学部	段階	1段階

学習指導要領における段階の目標

ア　知識及び技能	イ　思考力，判断力，表現力等	ウ　学びに向かう力，人間性等
日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。

年間指導重点項目一覧

学期	指導事項 / 単元（題材）	知識及び技能							思考力，判断力，表現力等								
									A　聞くこと・話すこと			B　書くこと		C　読むこと			
		ア		イ					ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ	ウ	エ
		言語の特徴や使い方		我が国の言語文化													
		(ア)	(イ)	(ア)	(イ)	(ウ)㋐	(ウ)㋑	(エ)									
		身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること	言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること	昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと	遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること	いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること	筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること	読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと	教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること	身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること	伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと	身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること	文字に興味をもち、書こうとすること	教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること	絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること	絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること	絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること
前期	(あ)おはなしにしたしもう 「ぞうくんのさんぽ」「おおきなかぶ」		○	○				◎		○				◎			○
	(い)ちがいをかんじよう 「おおきい　ちいさい」		◎		○					○	◎			○			
	(う)かぞえてみよう1～5 「かくしたのだあれ」		◎					○	◎	○							
後期	(え)かぞえてみよう 「おいしい　おいしい　123」		◎		○				◎	○							
	(お)さがしてみよう 「コロちゃんはどこ？」	○			◎			○		○				○			◎
	(か)かたちにふれよう 「まるまるやさん」		○		◎			○		◎					○		

【資料３】シラバス様式２（算数・小・１段階）

令和4年度　指導と評価の年間計画（シラバス）　様式2

学部	小学部	授業名	ことば・かず
学年	2・3年	教科等	国語・算数

特別支援学校学習指導要領					
教科	算数	学部	小学部	段階	1段階

学習指導要領における段階の目標

	ア　知識及び技能	イ　思考力，判断力，表現力等	ウ　学びに向かう力，人間性等
A 数量の基礎	身の回りのものに気付き、対応させたり、組み合わせたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。	身の回りにあるもの同士を対応させたり、組み合わせたりするなど、数量に関心をもって関わる力を養う。	数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。
B 数と計算	ものの有無や3までの数的要素に気付き、身の回りのものの数に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。	身の回りのものの有無や数的要素に注目し、数を直感的に捉えたり、数を用いて表現したりする力を養う。	数量に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。
C 図形	身の回りのものの上下や前後、形の違いに気付き、違いに応じて関わることについての技能を身に付けるようにする。	身の回りのものの形に注目し、同じ形を捉えたり、形の違いを捉えたりする力を養う。	図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。
D 測定	身の回りにあるものの量の大きさに気付き、量の違いについての感覚を養うとともに、量に関わることについての技能を身に付けるようにする。	身の回りにあるものの大きさや長さなどの量の違いに注目し、量の大きさにより区別する力を養う。	数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。

年間指導重点項目一覧

学期	指導事項 / 単元（題材）	知識及び技能																			思考力，判断力，表現力等						
		A 数量の基礎					B 数と計算						C 図形						D 測定		A 数量の基礎		B 数と計算	C 図形			D 測定
		ア		イ			ア						ア						ア		ア	イ	ア	ア			ア
		具体物		ものとものとを対応させること			数えることの基礎						ものの類別や分類・整理						身の回りにある具体物のもつ大きさ		具体物	ものとものとを対応させること	数えることの基礎	ものの類別や分類・整理			身の回りにある具体物のもつ大きさ
		(ア)㋐	(ア)㋑	(ア)㋐	(ア)㋑	(ア)㋒	(ア)㋐	(ア)㋑	(ア)㋒	(ア)㋓	(ア)㋔	(ア)㋕	(ア)㋐	(ア)㋑	(ア)㋒	(ア)㋓	(ア)㋔	(ア)㋕	(ア)㋐	(ア)㋑	(イ)㋐	(イ)㋐	(イ)㋐	(イ)㋐	(イ)㋑	(イ)㋒	(イ)㋐
		具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること	目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること	ものとものとを対応させて配ること	分割した絵カードを組み合わせること	関連の深い絵カードを組み合わせること	ものの有無に気付くこと	目の前のものを、1個、2個、たくさんで表すこと	5までの範囲で数唱をすること	3までの範囲で具体物を取ること	対応させてものを配ること	形や色、位置が変わっても、数は変わらないことについて気付くこと	具体物に注目して指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること	形を観点に区別すること	形が同じものを選ぶこと	似ている二つのものを結び付けること	関連の深い一対のものや絵カードを組み合わせること	同じもの同士の集合づくりをすること	大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること	ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現すること	対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉えること	ものとものとの関連付けることに注意を向け、ものの属性に注目し、仲間であることを判断したり、表現したりすること	数詞とものとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付き、それらを学習や生活で生かすこと	対象物に注意を向け、対象物の存在に気付き、諸感覚を協応させながら具体物を捉えること	ものの類似したものに気付き、日常生活の中で関心をもつこと	気付き、関心をもって対応しながら、表現する仕方を見つけ出し、日常生活で生かすこと	ものとものとの関係に注意を向け、ものの属性に大きさを表す用語に注目して表現すること
前期	(あ)おはなしにしたしもう「ぞうくんのさんぽ」「おおきなかぶ」	◎																		○	◎						○
前期	(い)ちがいをかんじよう「おおきい　ちいさい」	○																		◎	○						◎
前期	(う)かぞえてみよう1～5「かくしたのだあれ」	◎					○	○	○	○			○							○	○		◎				
後期	(え)かぞえてみよう「おいしい　おいしい　123」	○							◎		○										○		◎				
後期	(お)さがしてみよう「コロちゃんはどこ？」		◎										○								◎			○			
後期	(か)かたちにふれよう「まるまるやさん」	○											◎									○		◎			

【資料４】学習指導案

「国語・算数」（ことばかず）学習指導案

１．日時　　令和４年　９月１４日（水）　第３時限（10：55～11：30）

２．場所　　小学部　第３学年１組教室

３．学部・学年・組　　小学部　第２・３学年（ぶどうグループ）　５名

４．単元名　　「おおきい　ちいさい」

５．単元目標

・体験活動や絵本の読み聞かせから、「おおきい」「ちいさい」の言葉が表す事象やイメージに触れる。【知・技】（国）
・読み聞かせや体験活動から「おおきい」と「ちいさい」の違いに気づく。【知・技】（算）
・体験活動ややり取り遊びを通して、感じたことや伝えたいことを身体の動きや表情、視線で表現したり応えたりしようとする。【思・判・表】（国）
・体験活動を通して感じた「おおきい」や「ちいさい」を身体の動きや表情、視線や声で表現する。【思・判・表】（算）
・読み聞かせに親しんだり、やり取りを楽しんで意欲的に伝えたり応えたりしようとする。【学】（国）
・大きさの違いに関心を持ち、体験活動に意欲的に取り組もうとする。【学】（算）

６．児童観

本グループの児童は、2年生１名、3年生4名の計5名である。視覚認知の難しい児童と聴覚認知の難しい児童が数名在籍している。また、日常的に医療的ケアを必要とする児童や発作のある児童も数名在籍しており、体調が学習の意欲に影響しやすい児童が多い。それぞれの児童の得意な認知方法が異なることや、具体物や教材への注目に課題のある児童もいることから、これまでの学習でも、視覚的な認知が難しい児童には、触れたり体感できる教材を取り入れたり、聴覚的な認知が難しい児童には、視覚的にとらえやすい教材の使用や提示位置、提示方法の工夫、視覚的な手がかりやサインを使ったりして、得意な認知方法にアプローチする支援や教材教具に関心を向けられるような工夫を検討しながら学習に取り組んでいる。グループの児童の多くが、繰り返しの取り組みによって見通しを持ち、言葉かけに応えようとしたり、期待感を表す児童が多いことから、これまでの授業でも、ねらいとする言葉を統一し、繰り返し体験することで言葉をイメージづけたり、やり取りの楽しさを感じることを大切に学習してきた。

今年度の年度当初に昨年度の学習の経過を引き継ぎ、「ぞうくんのさんぽ」の学習を通して、大きさの違いを感じ取る学習を行ったところ、それぞれの児童がぞうさんを模した大きいクッションとかめさんを模した小さいクッションに乗った時に、体の動かし方や表情が変わり、大きさの違いを感じ取って表現していることを見取ることができた。

この学習から、様々な「おおきい」と「ちいさい」を体験することで、「おおきい」と「ちいさい」という言葉のイメージやそれらを表現する言葉の幅を広げ、身近な大きさの違いへの関心を高めたり、体験活動を楽しむ中で、感じたことを伝えたり、やり取りに応えたりする意欲を高めたいと考えた。

７．教材観

「おおきい　ちいさい」の絵本は、本単元でねらいとしている「おおきい」と「ちいさい」の2**つの**言葉もしくはそのバリエーションを繰り返すシンプルな構成の絵本である。ページを開くと、感性豊かな子どもの関心を引く鮮やかな色彩で「おや？」「これは何だろう？」と好奇心を刺激する大小の抽象画と、ページ毎にフォントの異なる「おおきい」と「ちいさい」のひらがな文字だけが描かれ、これらの抽象画や文字から密度、重量感、面積、長短などいろいろなおおきい、ちいさいを感じ取ることができる教材である。また、「おおきい」と「ちいさい」の2つだけの言葉だが、読み手の声の大小、抑揚、速度、響き、リズムなどを変えることで、先述した密度や重量感など色々なイメージを表現することができる。子ども達がこれらを見聞きすることで、様々な「おおきい」「ちいさい」のイメージに触れながら、言葉の響きやリズムの楽しさを体感し、言葉への関心や読み聞かせへの関心を高めるのに適した教材であると考えた。これに加え、絵本からいくつかの場面を抽出し、大小の具体物を使った体験活動を行うことで、様々な「おおきい」と「ちいさい」を体感し、その違いを感じ取ったり、感じた違いを表現したりする学習を行うのに適した教材だと考えた。

８．指導観

児童の得意な認知方法が異なることや教材への注目が課題となる児童が多いことから、個々に応じた提示や配慮ができる利点のある ICT 教材を活用し、絵本をスライドにしてアニメーションをつけることでおはなしにより注目できるようにした。また、児童の実態に応じてアップル TV とタブレットを提示ツールとし、タブレットホルダーを使用するなどして、それぞれの児童に合わせた提示位置も検討して設置した。さらに、それぞれのページで異なるイメージを持てるように、ページ毎に読み手を変えて、抽象画や文字からイメージする量感や質感を声色や声の抑揚、調子、音の長短などで表現することで、質量や長短などを内包した様々な「おおきい」「ちいさい」の違いを視覚と聴覚で共に感じ取りながら、読み聞かせへの興味や期待感を高められるようにした。更に、抽象画を粘土やフェルトなどで立体的にした「触れる絵本」を作り、視覚認知が難しい児童でも、触れることで感じ取れるように工夫した。

「おおきい」「ちいさい」の体験活動については、児童観で前述したとおり、様々な体験でイメージの幅を広げられるよう絵本の場面から3場面を抽出し、それぞれの抽象画を具体物にして、それらに触れる、持つ、落とす、引き上げる、乗るなど様々な体感ができる体験活動を行った。この時、違いをわかりやすくするため、「おおきい」具体物は両手で抱えることができない大きさ、「ちいさい」具体物は児童の両手に収まる大きさにし、自分で持てる「ちいさい」と持てない「おおきい」になるようにした。そして、体験する際には、言葉かけを「おおきい」と「ちいさい」で統一し、言葉と体験で感じ取ったイメージを結び付けられるようにした。同時に、「おおきい」は見た目には「どっしり」、持った時には「ずっしり」、乗った時には「ぶろろろ」、「ちいさい」は見た目には「ちょこん」、持った時には「ひょい」、乗った時には「ぶーん」などのオノマトペを大きさのイメージと結び付けて使用した。

９．単元の評価規準

A　知識・技能	B　思考・判断・表現	C　主体的に学習に取り組む態度
①（国）読み聞かせや体験活動の中で、言葉の響きや抑揚、リズムの違いから「おおきい」と「ちいさい」を感じている。 ②（算）読み聞かせや体験活動から、「おおきい」と「ちいさい」の違いを感じている。	①（国）自分が感じた「おおきい」「ちいさい」を伝えたり、やり取り遊びで、友だちに「おいで」を伝えたり、応じたりしようとしている。 ②（算）体験活動で、具体物の大きさに応じて表情や声、身体の動きを変えようとしている。	①（国）言葉の響きやの楽しさを感じ、おはなしに注目したり、具体物に触れようとしたりしている。 ②（国）体験活動ややり取り遊びで、意欲的に伝えたり応えたりしようしている。 ③（算）大きさに注目しながら体験活動に意欲的に取り組もうとしている。

10．単元の指導と評価の計画（22 時間、本時は第 15 時：9 月 14 日）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
1	1 2 3	・絵本『おおきいちいさい』の内容を知る ・第1場面の体験活動から「おおきい」と「ちいさい」を感じ表現する	・スライド絵本『おおきいちいさい』を TV 画面で見聞きする ・大小のボールの①弾む様子を見聞きする②手や膝に乗せる③持つ体験をする ・ボールの大きさに応じて持ち方や乗せ方、表情を変えて表現する	・それぞれの実態に応じた端末を使用し、画面に注目しやすい座席配置にする ・大きさの違いを感じ取れるよう、大小を続けて体験する ・大きさによって、児童の様子にどのような違いがあるのかをしっかりと見取り、言葉にして伝える	（行動観察） AB① AB②
2	4 5 6 7 8 9 10 11	・タブレットや TV、触覚絵本で『おおきいちいさい』のおはなしを見聞きする ・第3場面の体験活動から「おおきい」と「ちいさい」を感じ表現する	・タブレットや TV 画面、触覚教材でスライド絵本『おおきいちいさい』を見聞きする ・第3場面の抽象画を模した大小の具体物を①手や膝に乗せる②押す③落とす④引き上げて落とす体験を通して、おおきさの違いを感じ表現する	・画面に注目しやすい環境定や支援を行う ・児童の実態に応じて、絵本の抽象画を立体にした触覚絵本も使用する ・言葉かけの際にも声の大小を変え、大きさのイメージに繋がる言葉を強調する ・大きさの違いを感じ取れるよう大小大と続けて体験する ・大きさによって、児童の様子にどのような違いがあるのかをしっかりと見取り、言葉にして伝える	（行動観察） AB① AB② C① C③
3	12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22	・タブレットや TV、触覚絵本で『おおきいちいさい』のおはなしを見聞きする ・第8場面の体験活動から「おおきい」と「ちいさい」を感じ表現する ・友だちとやり取り遊びを通して、「おいで」と伝えたり、応えたりする	・タブレットや TV 画面、触覚教材でスライド絵本『おおきいちいさい』を見聞きする ・第8場面の抽象画を模した大小の乗り物を乗り（入り）、大きさの違いを感じる ・友だちとのやり取りの時に、表情や身体の動きで「おいで」を伝えたり、応えたりする ・「ちいさい」は一人で、「おおきい」は友だちと一緒に乗ることで大きさの違いを感じる	・「大きさ」に関する言葉を強調して伝える。 ・大きさによって、児童の様子にどのような違いがあるのかをしっかりと見取り、言葉にして伝える。 ・友だちに注意を向けやすい姿勢づくりや支援を行う。 ・「おおきい」は「ぶろろろ」「ちいさい」は「ぶーん」のオノマトペで表現し、違いを感じられるようにする。 ・児童の様子から、伝えたり応えたりしようとしていることを見取り、言葉添えする。	（行動観察） AB① AB② C① C②

11．本時の展開

(1) 本時の目標

・やり取り遊びで、友だちに注目し、声や表情、体の動きで「おいで」と伝えたり応えたりしようとする。（国）

・乗り物の大きさの違いに応じて、声や表情、身体の動きを変えようとする。(算)

(2) 本時の評価規準

・やり取り遊びで、友だちに注目し、声や表情、体の動きで「おいで」と伝えたり応えたりしようとしている。（国）

・乗り物の大きさの違いに応じて、声や表情、身体の動きを変えようとしている。（算）

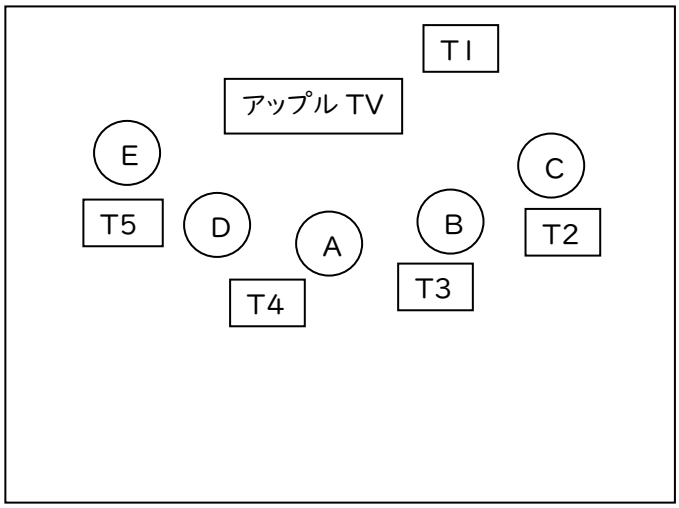
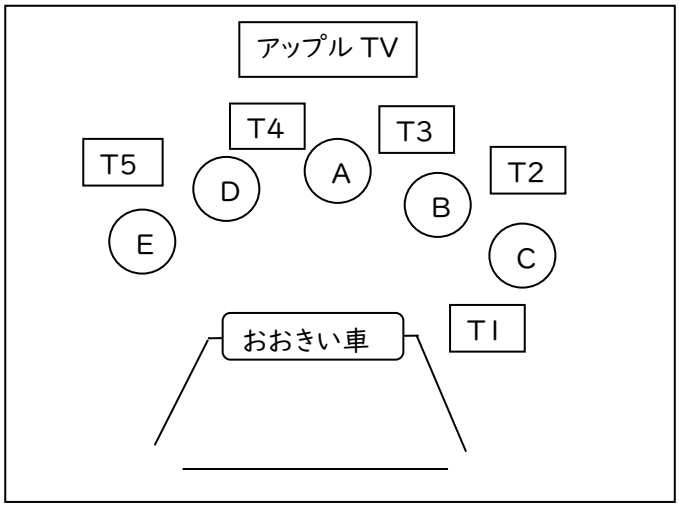
(3) 本時で扱う教材・教具

TV モニター、タブレット端末、タブレットホルダー、スピーカー、触覚絵本、大小の乗り物、衝立

(4) 児童の実態と本時の目標

	児童の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
A	・聴覚認知に困難がある ・興味のあるものはよく見ることができる ・触覚刺激には敏感で、初めての活動では、手を引いくが、徐々に慣れると触れようと手を伸ばす ・人の働きかけに快反応がある ・読みきかせでは、絵本や画面よりも周囲の教師や友だちに注意が向きやすい ・支援者からの働きかけに笑顔で期待感を表す ・繰り返しの取り組みで見通しが持てると、自分から期待感を表す ・期待反応や応答性のある行動が課題である **【関連する自立活動の内容】** **区分：コミュニケーション** **・コミュニケーションの基礎的能力に関すること**	・やり取り遊びの時に、相手に注目して声を出したり、手を動かしたり、表情を変えたりして「おいで」を伝えたり、応えたりしている ・乗り物の大きさに応じて表情や身体の動きを変えている	・支援者はできるだけ後方から支援し、やり取りする相手に注目できるよう環境設定する ・「おいで」は言葉かけとともにサインを使うなどして、本児の表出を促す ・本児の反応が出るまで、時間をかけて待ち、表出があった時に見取った気持ちを言葉にして返す ・乗り物の中で動いたり大きな声を出したりして、大きさの違いを感じる	・やり取り遊びの時に、相手に注目して、声を出したり、手を動かしたり、表情を変えたりして「おいで」を伝えたり応えたりしている ・大小の車に乗った時に、車の大きさに応じて表情を変えたり、体の動きを変えたりして感じた違いを表現している
B	・全盲で視覚認知が難しい ・補聴器を装着しているが、好きな絵本のフレーズで笑ったり、体を動かしたりして楽しむ様子がある ・聴覚、触覚認知が得意 ・絵本の読み聞かせが好きで、読み終わった後、自ら机を叩いたり、足を鳴らしたりして読んで欲しい気持ちを伝える ・体調と学習への意欲との関係が大きい ・他者意図への気づきや単純な因果関係の理解が課題である **【関連する自立活動の内容】** **区分：コミュニケーション** **・コミュニケーションの基礎的能力に関すること**	・やり取り遊びの時に、表情を変えたり、口や手足を動かして、「おいで」を伝えたり応えたりしようとしている ・乗り物の大きさに応じて、表情や身体の動きを変えて表現する	・やりとりの間は、できる限り他の音が入らないようにして、やり取りに集中できるような環境の設定を行う ・本児の反応が出るまで、時間をかけて待ち、表出があった時に見取った気持ちを言葉にして返す ・乗り物の中で動いたり声を出したりして、大きさの違いを感じる ・車のオノマトペの「ぶろろろ」は低く大きな声にして小さい車との違いを感じられるようにする	・やり取り遊びの時に、表情を変えたり、口や手足を動かして、「おいで」を伝えたり、応えたりしようとしている ・大きい車に乗った時に、より手足を動かしたり、表情を変えたりして感じた大きさの違いを表現している

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 （評価方法）
5分 **導入**	1. はじめのあいさつ 2. 名前呼び･返事	・授業の始まりを意識づけするために、全員の姿勢を整える ・体調確認 ・T1に注目できるように、視線を合わせてやり取りをする	
25分 **展開**	3. おはなし『おおきい　ちいさい』 ・タブレット端末やアップル TV、触覚絵本を使用して、スライド絵本のおはなしを見聞きする 4. やってみよう（体験活動） ①第9場面の体験をすることを知る ②ちいさい車に乗った授業を振り返る ③おおきい車に乗ることを知る ④空間の広さや音の響きの違いから大きさの違いを感じ表現する ⑤友達と「おいで」のやり取り遊びをする ⑥友だちと一緒に乗り物に乗る	・児童の実態に応じて、タブレット端末やアップル TV を使用し、見やすい位置に提示する ・スライド絵本の場面を提示してイメージを持てるようにする ・ちいさい乗り物に乗った体験を思い出せるよう具体物を提示しながら乗った時の様子を伝える ・大きさの違いを感じやすいように個に応じた姿勢づくりや支援、言葉かけを行う ・児童の表出の違いをしっかりと見取り、言葉にして伝える ・やり取りに注目できる環境設定を行う ・「おいで」のやり取りでは、言葉かけとともにサインで表現するなどして児童の表出を促す ・友だちと一緒に乗っていることが感じられるような言葉かけを行う	**AB①** **AB②** **（行動観察）**
5分 **まとめ**	5. ふりかえり 6. おわりのあいさつ	・今日のよかったところを再度フィードバックする ・授業の終わりを意識づけできるように、全員の姿勢を整える	

(6) 教室配置等